

## 平成二十八年度 埼玉県公立高校入試問題 解説

※入試問題の文章本文はテレ玉ホームページよりダウンロードできます。

こんばんは、サイエンススクールの岡部順介です。今回は説明的文章と古文の読み方のポイント、そして「記述問題」の書き方を一緒に勉強しましょう。

### 説明的文章

では、最初に説明的文章の読み方のポイントです。 本日は三つのポイントをみなさんに紹介します。

<b>◎説明的文章のポイント</b>	
① <b>対比関係</b> に注目	(例) <b>日本と西洋／昔と今</b> など
② <b>指示語</b> に注目	(例) <b>これ・その</b> など
③ <b>接続語</b> に注目	(例) <b>だから・しかし・つまり</b> など

この三つのポイントをチェックする練習として、第一段落を見てみましょう。  
 まずは、「**対比関係**」に注目して、何と何が比べられているか、考えてみてください。  
 「**現在**」と「**600万年前**」、「**ヒト**」と「**チンパンジー**」、「**文明社会を築き**」と「**家も建てず、科学も文化も使わず**」、「**繁栄を謳歌**」と「**絶滅の危機**」などが対比関係になっています。

ヒト ・ 文明社会を築き ・ 繁栄を謳歌	チンパンジー ・ 家も建てず、科学も文化も使わず ・ 絶滅の危機
----------------------------	--

ほか、「**一方**」という接続語や、「**その**」という指示語にもチェックを入れます。  
 このようにして読んでいくと、頭の中で今は「ヒト」の話なのか、「チンパンジー」の話なのかなど、整理しながら読み進めることができます。読み終わったときに「この文章はAとBが比べられていて、筆者はAの立場だ」といった要点をつかめていることが重要です。

では、今練習した三つのポイントをふまえて、問2の問題を解いてみましょう。

問2 ② ヒトとほかの霊長類との決定的な違い とありますが、筆者は、ヒトとほかの霊長類との決定的な違いは、どのような点にあると考えていますか。次の空欄にあてはまる内容を、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。(6点)

ヒトは、足を  二十五字以上、三十五字以内  という点。

この問題で問われているのは、「ヒト」と「ほかの霊長類」との「違い」です。ですから、その「違い」が書かれている所を探すことが解答への第一歩となります。次の手がかりをもとに探します。

**手がかり その① 指示語**

この問題は傍線部の問題です。傍線部の問題は、その傍線部を含む一文を必ず確認しましょう。すると、傍線部の直前に「結果的にこのことが」という指示語があることが確認できます。ということは、「ヒト」と「ほかの霊長類」の「違い」は、その前に書かれているということです。「ヒト」と「ほかの霊長類」の対比に気をつけながら、傍線部の前の内容を読み直してみてください。

**手がかり その② 「次の空欄」の前後**

また、この問題は「次の空欄」を埋める問題です。この場合、その空欄前後の言葉も手がかりになります。空欄直前に「ヒトは、足を」とあるので、「ヒト」の「足」について書かれている段落も確認します。

指示語の前から、「ヒト」と「ほかの霊長類」の「違い」、および「ヒト」の「足」について書かれている所を読み直して整理すると、次のようにまとめられます。

ヒト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地上に降りてきた。</li> <li>・ 後ろ足だけを使い二本足で地上を歩行することを選んだ。</li> <li>・ 足を、完全に移動するための道具にしてしまった</li> <li>・ 人間の足は独自のかたちで進化を続けた。</li> <li>・ 人間の足は、親指がほかの指と離れていない</li> <li>・ 手の仕組みは変わらず、親指だけが離れたいわば4対1の構造で、どんな物でもつかめるようになっていく</li> <li>・ 移動に手を使うことがなくなり、自由に使えるようになった</li> </ul>
霊長類(サル・チンパンジー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足で枝をつかむ</li> <li>・ 歩行の際に手を使わなくてはいけない</li> </ul>

これをもとに、①「ヒト」と「ほかの霊長類」の「違い」について、②「次の空欄」に合うようにまとめます。

①「ヒト」と「ほかの霊長類」の「違い」

まず、「ヒト」と「ほかの霊長類」の「違い」ですが、傍線部直前の「この」という指示語が指す内容をもとにまとめると、

「ヒト」は「移動に手を使うことがなくなり、自由に使えるようになった」

が

「チンパンジー」（＝ほかの霊長類）は「歩行の際に手を使わなくてはいけない」

のようになります。これを答えの材料①とします。

②「次の空欄」に合うようにまとめる

次に、①でまとめた内容も含めて、「次の空欄」に合うようにまとめます。

ヒトは、足を

という点。

空欄前が「足を」となっているので、先ほど整理した箇所から該当する部分を確認すると、「足を、完全に移動するための道具にしてしまった」という部分が見つかります。これが答えの材料②になります。

これで、解答を作成するための材料である①と②がそろいました。あわせると、次のようになります。「足を」につなげる必要があるので、②の要素が先にきます。

ヒトは、足を

完全に移動するための道具にしてしまった

+

「ヒト」は「移動に手を使うことがなくなり、自由に使えるようになった」

が

「チンパンジー」（＝ほかの霊長類）は「歩行の際に手を使わなくてはいけない」

という点。

あとは、この材料を空欄前後と指定字数（二十五字以上、三十五字以内）に合うようにまとめればよいです。空欄前で主語が「ヒトは」となっているので、「ヒト」の内容を中心にまとめます。すると、解答が次のようになります。②と①の要素が両方書けていて正解となります。

ヒトは、足を

② 完全に移動するための道具にすることで、

① 自由に使えるようになった（33字）

という点。

以上のように、説明的文章は、「対比関係」、「指示語」、「接続語」などに注目しながら読み進めることで、問題を解く際の重要な手がかりが見つかりますので、しっかりとチェックをしていきましょう。

## 古文

次に、古文の読み方のポイントを説明します。

### ◎古文読解のポイント

- ① **口語訳・注・設問がヒント**
- ② **知っている」と役に立つ助動詞・助詞**

助動詞	主な意味	助詞	主な意味
き(し・しか)、けり	過去(くた)	ば	順接(くので、くと)
つ、ぬ、たり、り	完了(くってしまった)	ども	逆接(くけれども)
ず(ざり)	打消(くない)		
なり	断定(くだ)		
む(ん)、べし	推量(くだろう) 意志(くしよう)		

まずは、「口語訳・注」をたよりに、古文の大まかな内容をつかみます。「設問」のほうで古文の意味を説明している場合もありますので、問いの内容もチェックしましょう。その際、主な助動詞・助詞の意味を知っていると、より正確な内容をつかめるようになります。助動詞・助詞には「口語訳」がっていないことが多いので、表でまとめたものは知っておくと役に立ちます。

では、ポイントをふまえて平成二十八年度埼玉県公立高校入試大問4の問2を解いてみましょう。

問2 ① かねて作りける詩歌相違して とありますが、これはどのようなことを述べたものですか。次の空欄にあてはまる内容を、十字以内で書きなさい。(3点)

月見の会のために前もって用意しておいた詩歌が、雨が降ったために、その場に 十字以内 ということ。

今回は、傍線部が入っている一文を読んでききます。この部分は口語訳や注がありませんが、助動詞・助詞の意味を確認しながら読んでみてください。

### 古文

さるままに／日暮ひくれより／雲くもうつまきて／雨あめふり出でしかば、①かねて作りける／  
詩歌相違して、／夜よふくれども／一首も出でず。

では改めて問題を確認しましょう。「①かねて作りける詩歌相違して」がどのようなことを述べているかということでした。

空欄の前後を確認すると、「月見」が「雨」になったことで、「用意しておいた詩歌」が「その場に」どうなったかを記述する問題になっていることが分かります。古文中では傍線①のあとに「夜ふくれども一首も出でず」という表現もあります。これをもとに解答を考えます。たとえば、「ふさわしくなくなった」や「合わなくなった」などが考えられます。

月見の会のために前もって用意しておいた詩歌が、雨が降ったために、その場に

ふさわしくなくなった (10字)

ということ。

最後に本日のポイントのおさらいです。

**公立必勝ポイント**

**◎説明的文章のポイント**

- ① **対比関係に注目**
- ② **指示語に注目**
- ③ **接続語に注目**

**◎古文のポイント**

- ① **口語訳・注・設問がヒント**
- ② **知っているのと役に立つ助動詞・助詞**

それでは受験生のみなさん、今日の授業の内容をもとに、練習を積み重ねていってください。今回扱った問題の「類題」がサイエンススクールのホームページにありますので、ぜひ活用してください。入試で必ず合格を勝ち取りましょう。